

新春にあたり

せたな町長

高橋 貞光



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には希望に満ちた平成25年の新春を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、強く印象に残るのは、ふくしまキッズ・せたなサマースクールの子供たちの感想文には、楽しかったせたな町での思い出がいっぱい書いてありました。また、親から町全体で子供たちを迎えたことに対し「町民の皆さんの愛情が伝わって涙が出ました。」と感謝のお手紙も頂きました。実行委員や協力を頂いた町民の皆様、そして玉川・若松・馬場川小学校児童の皆さんの優しい暖かい気持ちに私からも感謝を申し上げます。

また、今年の気候は夏から秋にかけ記録的な猛暑、一方、10月以降の天候不良と、11月26日、12月6日の2度にわたる爆弾低気圧によって住宅や農業施設、停電等の被害が発生しました。これらの天候によって、農業は「良」、漁業は「不」と明暗を分けることとなりました。

その農業ですが、主力の水稲が作況指数108で「良」となり、収量・品質・味、共にこれまでになく作柄、加えて価格も上々と豊穰の秋を迎えたのを始め、他の作物についても、総じて平年を上回る出来秋となりました。

畜産では、肉畜において、米国の干ばつによる飼料価格の上昇と価格の低迷により苦戦となっております。漁業では、ウニが好調で水揚げが1億円を

超えたものの、イカは平年並み、ナマコは価格下落により前年比4千万円の減、サケは猛暑で海水温が高く、前年の1割以下で2億3千万円減と、著しい不漁で終わりました。

一次産業の取り組みとして、農業では基盤整備や優良家畜の導入、漁業ではウニ深淺移植、並びに漁業者の負担増に対する軽減等、支援を行なったほか、大成種苗センターにおいてナマコの増殖技術確立の研究を進めております。

社会資本関連では、大成区の水道施設整備に昨年度5億円余りの予算を投入し、宮野地区に続いて平浜地区、花歌地区が順次給水開始したほか、貝取澗配水ポンプ施設が完成となりました。新年度は貝取澗地区と湯の尻地区への給水区域拡大と

久遠配水池の完成を目指します。瀬棚区の水道施設整備では3千7百万円で新水源の井戸と送水管布設工事を平成24年度で終え、本年4月より水質等の不安要素の解消を図ることとしております。また、北檜山区の町道雲内線の防災工事は7千万円の事業費で新年度完成を目指しております。

し尿処理では、ミックス処理施設が昨年4月より運転開始となり、処理コストの大幅な削減が実現しました。福祉では地域密着型小規模特別養護老人ホーム「せたな雅荘」が6月にオープンしました。また、障害者グループホームは、現在町有施設を4千7百万円余りの事業費で改修しており、本年4月の開所を目指しております。このことにより、せたな町の高齢者およ

び障害者福祉は一層向上することになります。

次に町財政についてであります。旧町より引き継いだ危機的な財政については、これまでの行財政改革の取り組みの結果、健全な財務内容に改善することができましたが、今後は普通交付税の一本算定に向けた取り組みを進めなければなりません。

合併町であるせたな町は合併後10年間、優遇措置として他の町より多い普通交付税を受けていますが、これが平成27年度で終了します。平成28年度からは億単位で段階的に削減となり、5年後の平成33年度からは一つの町として普通交付税が計算され、これに人口減少分を加味すると、その影響額はマイナス15億円程度におよぶものと推定しております。

これまで町が経験したことのないこの大幅な減額は、交付税全体の約25%以上となり、再び財政悪化を招かないためにも、これに見合った行政コストの削減を実現しなければなりません。こうしたことから、町では私を本部長として、せたな町行政改革推進本部を設置し、総力を挙げて必要な見直しの検討を進めております。他町並みの行政コストに近づけ、産業振興、高齢者対策、子育て支援等々、町民生活を持続していく上で必要な制度設計ができる町づくりを進め、次の世代に安心して引き継ぐことが、今を生きる我々の責任と考え、先頭に立ってその使命を果たしてまいります。

昨年は一本算定後の医療の体制、消防の在り方についてそれぞれの審議会に諮問をし、

時間をかけ慎重に審議を重ねて頂き答申を受けました。それぞれの委員の皆様が、これからの厳しい実態を踏まえ、新町を愛する立場から苦渋の選択であったことを拝察し、町づくりへの熱い思いに対し、私自身胸に込み上げるものを感じました。大成診療所の改築では「厳しい経営状況を踏まえ、コンパクトで機能的な診療所とすること」との答申でしたので、それらのご意見にそって所定の手续を見にそって所定の手续を進めてまいります。消防では「せたな消防署と瀬棚支署の統合は妥当」、庁舎の建替えについては「必要最小限で過大な整備にならないこと」「総合支所等の有効活用を検討すること」との答申であり、そのご意見にそって、議会まちづくり計画調査特別委員会で議論を頂いているところであります。

平成25年が町民皆様にとりまして、幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。